

# Setting Up the PDS

---

2001-2002 Winter Edition

Windows NT (英語版/日本語版)	4.0
Windows NT Service Pack	6a
Internet Explorer (英語版/日本語版)	5.01
MicroStation/J (英語版)	07.01.01.57 07.01.04.10
PDS (3D/2D/FWP/Raceway)	7.0
PD_ISOGEN	7.0
NTBATCH	5.0
IPLLOT (Server/Client)	10.00 10.01/10.02
IPLLOT Driver Pack	2.2 3.0
Oracle	8.0.5.1.1 8.1.5/8.1.6
RISORADS	05.05.00.06 05.05.00.07
SmartSketch (英語版)	4.0
SmartPlant Review	4.2.1
SPR Publisher	4.2.1

## 1. Windows NT のインストール

Windows NT をインストールする際の注意点を以下に示す。

RAID のコンフィグレーション

RAID 装置が内蔵/接続されているマシンでは、Windows NT のインストールを開始する前に、RAID の設定を行う。また、RAID のコンフィグレーションをフロッピーディスクに保存する。

パーティションの作成

Windows NT のインストールを開始した後、インストール先パーティションの指定の際、C:/D:等の全てのパーティションを作成しておく。

インストール先フォルダ

デフォルトの C:\WINNT に対してインストールを行う。

ライセンスモード (Windows NT Server のみ)

ライセンスモード (Per Server / Per Seat) を選択する。Per Server の場合は、Client Access License (OS 付属分 + 追加購入分) の登録を行う。

Computer Role (Windows NT Server のみ)

コンピュータの役割 (Primary Domain Controller / Backup Domain Controller / Stand Alone Server) を選択する。

Repair Disk

OS のインストールの際には作成しない。

Setup Options (Windows NT Workstation のみ)

Typical を選択する。

Select Component

デフォルトのままインストールを行う。

(Windows NT Server)

Install the most common components を選択する。

(Windows NT Workstation)

- Microsoft Internet Information Server (Windows NT Server)  
ファイルサーバとなるマシンでは、IIS (Internet Information Server)のインストールを行う。Windows NT Workstation マシンをファイルサーバとして使用する場合は、OS のインストール終了後、PWS (Peer Web Services)をインストールする。
  
- Network Protocols  
使用するネットワークプロトコルを選択する。なお、TCP/IP は必須となる。場合により、NetBEUI, NWLink IPX/SPX, DLC Protocol 等を追加する。
  
- Network Services (Windows NT Server)  
必要に応じて、Microsoft TCP/IP Printing 等を追加する。
  
- DHCP  
使用しない。
  
- TCP/IP  
IP アドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイの設定を行う。必要に応じて WINS Server の登録、LMHOSTS ファイルの Import 等を行う。
  
- IIS  
Internet Service Manager および FTP Service をインストールする。フォルダ等の設定はデフォルトを使用する。
  
- Clock  
Time Zone を GMT+9 にし、正確な時刻を設定する。
  
- Display Driver Configuration  
Windows NT のインストール終了後、再度設定を行うため、デフォルトの設定にしておく。

## 2. Windows NT の設定

Windows NT のインストール終了後、以下の設定を行う。

- Num Lock および Welcome ダイアログボックスの設定  
Administrator としてログオンを行う。キーボードの Num Lock をオンにし、ログオフする。再度ログオンし、Welcome to Windows NT ダイアログボックスの Show this Welcome Screen...オプションをオフにする。
  
- パーティションのフォーマット  
D:等のパーティションに対してフォーマットを行う。
  
- PWS のインストール  
Windows NT Workstation マシンをファイルサーバとして使用する場合は、PWS (Peer Web Services)のインストールを行う。Internet Service Manager および FTP Service をインストールする。フォルダ等の設定はデフォルトを使用する。
  
- Windows NT Service Pack  
Windows NT Service Pack 6a のインストールを行う。
  
- Display Driver  
ディスプレイドライバをインストールし、マシンの再起動を行う。

### サーバの場合

17 inch 以下のモニタを使用する場合は 1024 x 768 ドット 256 色以上、  
17 inch 以上のモニタを使用する場合は 1280 x 1024 ドット 256 色以上に設定し、マシンの再起動を行う。

### クライアントの場合

1280 (Dual の場合は 2560) x 1024 ドット 65536 色 (High Color, 16-bit) 以上に設定し、マシンの再起動を行う。

- 各種ドライバのインストール  
RAID、ECC Memory、サウンド、マウス、テープデバイス等のドライバを、必要に応じてインストールする。

- Internet Explorer のインストール  
Internet Explorer 5.01 のインストールを行う。再起動後、LAN による接続の設定を行う。また、Home Page として about:blank を指定する。
  
- 地域の設定  
OS が Windows NT 日本語版の場合、コントロールパネルで地域の設定を英語(U.S.)に変更する。
  
- Client Access License の登録(Windows NT Server のみ)  
ライセンスモードが Per Seat の場合、Administrative Tools の License Manager を起動し、Client Access License (OS 付属分 + 追加購入分)の登録を行う。なお、Product の指定(BackOffice / NT Server)に注意する。
  
- Full Drag の設定解除  
Display の Properties を表示し、Plus!の Show window contents while dragging オプションをオフにする。
  
- Windows NT Explorer  
View    Toolbar でツールバーを表示する。また、全てのファイルが表示されるよう、View    Options で Show all files に設定する。さらに、Display the full path in the title bar をオン、Hide file extensions for known file types をオフに設定する。
  
- ウィンドウのサイズ  
Windows NT Explorer, Event Viewer, User Manager for Domains, Registry Editor 等のウィンドウのサイズを適切に設定しておく。
  
- Event Viewer  
Log Settings の Event Log Wrapping を、Overwrite Events as Needed に設定する (System, Security, Application)。

### 3. アプリケーションソフトウェアのインストール

アプリケーションソフトウェアをインストールする前に、レジストリの設定を行う。

- 1) レジストリエディタ(Regedt32.exe)を起動する。
- 2) Add Key コマンドにより、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE に Intergraph という名前のキーを作成する。
- 3) Add Value コマンドにより、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Intergraph に以下の値を追加する。

Value Name:	Common
Data Type:	REG_SZ
String:	c:\win32appl\ingr\share

各アプリケーションソフトウェアは、以下の順序でインストールを行う。

- 1) Oracle (データベースサーバ)
- 2) RISORADS (データベースサーバ)
- 3) MicroStation (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 4) IPLOT Server (プロットサーバ)
- 5) IPLOT Driver Pack (プロットサーバ)
- 6) IPLOT Client (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 7) NTBATCH (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 8) PDS (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 9) PD\_ISOGEN (ISOGEN マシン)
- 10) その他のアプリケーション

以下に、各アプリケーションソフトウェアをインストールする際の注意点を示す。

#### □ Oracle

Oracle 8.1.5/8.1.6 の場合は、インストール先フォルダとして D:\Oracle\Ora81 を指定する。Oracle 8i (Enterprise Edition), Custom を選択する。Oracle8i Server, Net8 Products, Oracle Utilities, Oracle Configuration Assistants をインストールする。Java Runtime Environment のインストール先を D:\Oracle\jre\1.1.7 に変更する。Oracle インストール時には、データベースを作成しない。Legato Storage Manager はインストールしない。Net8 関連の設定はデフォルト(または Perform typical configuration)を使用する。

- RISORADS  
インストール先フォルダを C:\WIN32APP\INGR\RISORADS に設定する。
  
- MicroStation  
Typical または Complete により、MicroStation/J のインストールを行う。
  
- IPLOT  
IPLOT Server および Client を 1 台のマシンにインストールする場合には、Server, Client の順でインストールを行う。
  
- NTBATCH  
インストール先フォルダを c:\win32app\ingr\ntbatch に設定する。  
Do you want jobs to have access to the desktop? に対し Yes、  
Do you want to run all job as the same user? に対し No を選択する。
  
- PDS  
各コンポーネントをデフォルトの設定でインストールする。RISORADS がインストールされている場合には RISSHARE のインストールは行わない。
  
- PD\_ISOGEN  
ISOGEN の処理を行うマシンでは、PDS のインストールを行った後、PD\_ISOGEN のインストールを行う。RISORADS がインストールされている場合には RISSHARE のインストールは行わない。
  
- その他  
各マシンの構成に合わせて、SmartSketch, SmartPlant Review, SPR Publisher 等のソフトウェアをインストールする。
  
- マシンの再起動  
全てのソフトウェアをインストールした後、マシンの再起動を行う。





□ RIS の設定

日本語 NT 上では、RIS で使用する言語を English に設定しておく必要がある。  
C:\win32app\lng\r\share\ris05.xx\config\langs ファイルの読み取り専用属性をオフに設定し、以下のように編集する。

```
3 |japanese          |japanese      |0x0411|932|Japanese
```

上記の行を、次のように変更する。

```
3 |english          |english      |0x0411|932|Japanese
```

□ PDS Queue の作成

PDS Queue を起動し、Batch Queue を作成する。ISOGEN のバッチ処理を他のマシンで実行する場合には、PD\_ISO 関連の Queue を Pipe Queue とする。

□ NTBATCH の Account Mapping

Batch Manager を起動し、\*\* = DOMAIN\Administrator のように Account Mapping の定義を行う。

□ Bentley ライセンス

MicroStation, IPLOT 等のライセンスが発行されている場合にはインストールを行う。

□ PDS ライセンス

ライセンスのインストール(pdlice -a)、またはライセンスサーバの登録(pdlice -j)を行う。

□ SetFormScale

Dual モニタのマシンの場合は、PDS 2D Tools の SetFormScale により、Form Scale Factors を X = 0.5, Y = 0.5 に設定する。

□ FWP Envelope Builder の更新

FWP 用 Envelope Builder プログラムの更新を行う。Command Prompt 上で c:\win32app\ingr\fwplus\bin ディレクトリに移動し、以下のコマンドを実行する。

```
clashupd c:\win32app\ingr\pdclash\bin
```

□ IPLOT Driver Pack 2.2

日本語版 OS に対して IPLOT Driver Pack 2.2 をインストールした場合は、C:\winnt\inf\ipdrvpc.inf ファイルの修正を行う。「Oc・」, 「Oc 饅」のように表示されている部分を、「Oce」に変更する。その際、前後のクォーテーションマーク、空白、括弧等に注意する必要がある。なお、「Oc・」, 「Oc 饅」は、英語版の OS では「Oce」と表示される。

□ プリンタ/プロッタ

IPLOT サーバでは、使用するプリンタ/プロッタに合わせて、共有プリンタの作成を行う。また、ドキュメントの既定値やプロパティ等の設定を行う。

□ ユーザプロファイルのコピー

My Computer のプロパティを表示し、User Profiles タブを選択する。Administrator のプロファイルを選択して Copy To... ボタンを選択する。c:\Winnt\Profiles\Default User をコピー先として指定し、Permitted to use に Everyone を指定する。

□ Repair Disk の作成

コマンドプロンプト上で rdisk /s コマンドを実行する。サーバマシンの場合は、フロッピーディスクを挿入し、Repair Disk を作成する。

全ての設定作業を行った後、動作確認を開始する前にマシンの再起動を行う。